

2019年度事業報告について (第4号議案補足資料)

電力広域的運営推進機関

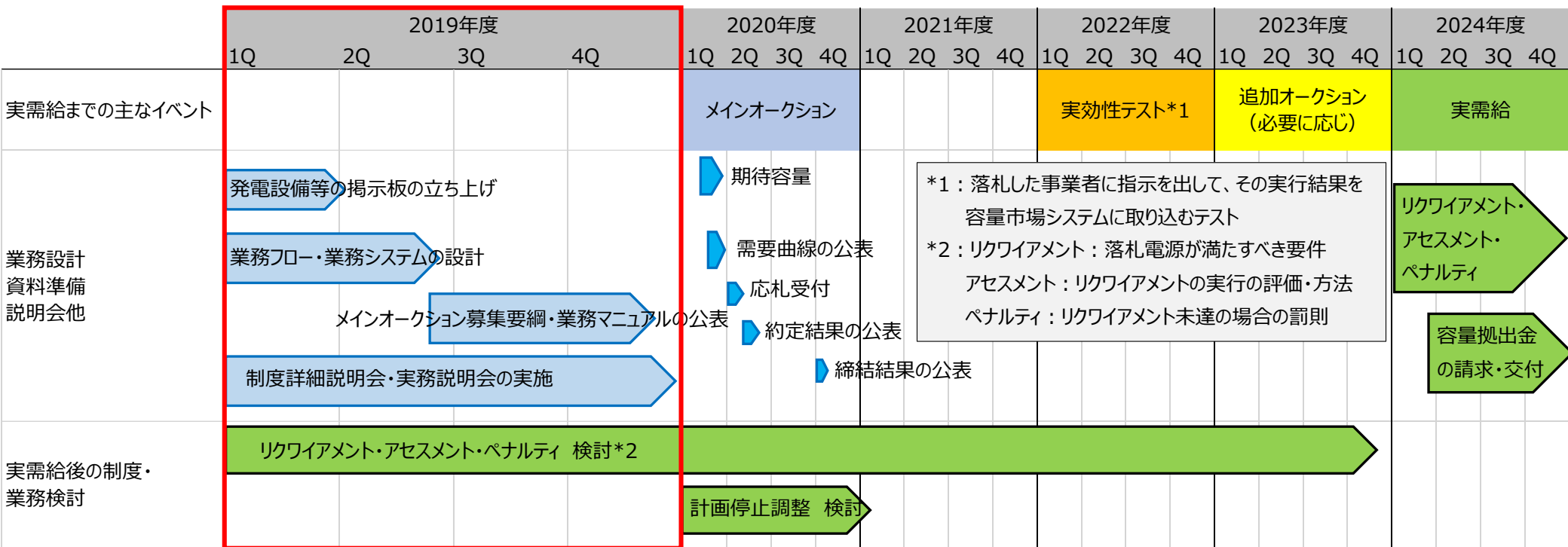
2019年度事業報告の主要項目は以下のとおりです。

1. 容量市場の導入に向けた検討（メインオークションに向けた取り組み）
容量市場の導入に向けて、導入時期や容量拠出金のキャッシュフローの在り方等、制度設計について幅広い議論を行うとともに、2020年の容量市場開設を念頭に運営体制について検討を行いました。
【2ページ参照】
2. 需給調整市場の導入に向けた検討
需給調整市場の段階的な導入に備えて、2021年度から他の商品に先行して導入する三次調整力②（再生可能エネルギー出力予測誤差に対応する調整力）について、制度検討を行いました。また2022年度に開場予定の三次調整力①の制度設計の方向性等を決定しました。
【3ページ参照】
3. 広域系統長期方針
国の政策の方向性と整合を図りながら、2022年度の完成を目指して、「電力系統に関するマスタープラン」の検討を進めることとしました。
また、コネクト&マネージや効率的なアクセス業務の在り方等を始めとする、各取り組みの実現に向けて検討を行いました。
【4ページ参照】
4. システム開発の円滑な実施
容量市場システムについては、参加登録関連機能の開発を着実に進め、2020年3月より参加登録の受け付けを開始しました。広域機関システムについては、間接送電権の機能改良、需給調整市場の要件定義・基本設計等を計画どおり完了しました。
【5、6ページ参照】

1. 容量市場の導入に向けた検討（メインオークションに向けた取り組み）

<2019年度の主な取り組み>

- 容量市場の導入時期や容量拠出金のキャッシュフローの在り方等、制度設計について幅広く検討を行いました。
- 運営体制整備に関しては、2020年7月の容量市場開設に向けて、市場参加者の利便性を考慮した業務フロー、業務システムの設計、詳細な業務運営の検討を行いました。また、意見募集による幅広い意見を踏まえて、2020年2月にメインオークション募集要綱及び業務マニュアル（メインオークション参加登録編）を策定・公表しました。



2. 需給調整市場の導入に向けた検討

<2019年度の主な取り組み>

- 2021年度に開場する三次調整力②（再生可能エネルギー出力予測誤差に対応する調整力）について、必要量や詳細要件、発動指令電源の運用方法、余力活用の仕組み等のほか、市場運営ルールの検討等を行い、開設のための準備を進めました。
- また、2022年度に開場予定の三次調整力①についても、調整係数や詳細設計の方向性等を決定しました。

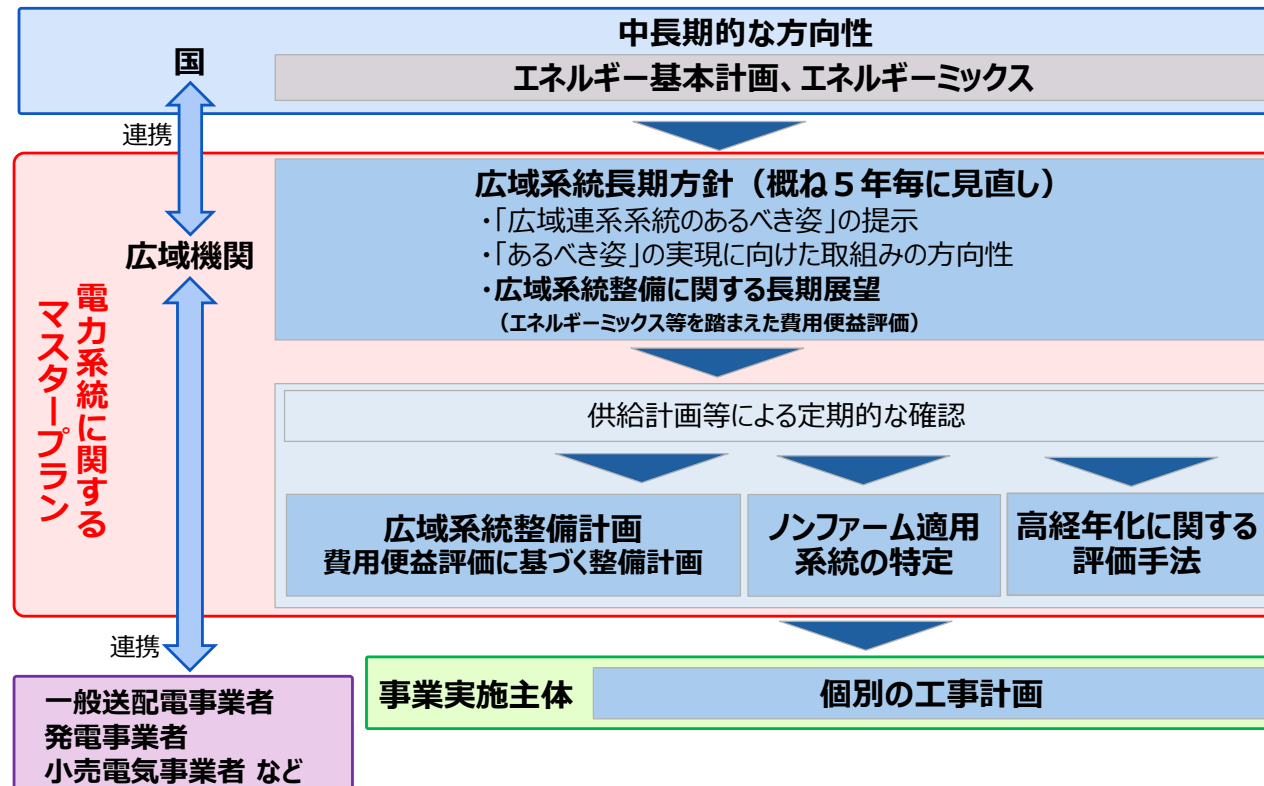


3. 広域系統長期方針

<2019年度の主な取り組み>

- 中長期的な将来の電力システムを見据えて設備形成の方向性を示す、「電力システムに関するマスタープラン」(2022年度完成予定)の基本的な考え方を整理しました。
- また、コネクト&マネージでは試行ノンファーム型接続の適用を9月に開始、N-1電制の本格適用の早期実現に向けた費用精算の仕組みの具体的な対応の方向性の整理、ノンファーム適用系統の判断要件の整理等を行いました。

【電力システムに関するマスタープランの全体像 (イメージ)】



4. システム開発の円滑な実施（2/2）

<広域機関システム>

